



家から家へ 御利益を

4月10日(火)、祁答院町蘭牟田の麓地区で、子孫繁栄や五穀豊穰を願い、新婚家庭から次の新婚家庭へ田の神さあを引越しさせる恒例の「田の神戻し」が行われました。

見送った湯丸悟史さん・さつきさん夫婦には、昨年7月、長男泰征ちゃんが誕生。この御利益を次の家にもと、田の神にふんした男性たちが受け入れ家庭の村上信一さん・里子さん宅に季節の花で飾り化粧直しをした田の神さあを運び入れました。



地元産の豆腐で 町おこし!

樋脇町倉野地区むらづくり委員会「なの花グループ」が、一般販売をめざし、地元の大豆を使って豆腐作りの試作製造を行いました。

同地区で栽培されている大豆を活用した、安心・安全の「くらの豆腐」作りを通して、地産地消の推進を目的としています。

豆腐は、角豆腐とおぼろ豆腐の2種類を製造。この豆腐の販売が、今後、地域の活性化につながる事が期待されます。

薩摩川内市 第4代国際交流員 唐瓊燁さん(25歳)

交流の架け橋になりたい



唐さんの出身地江蘇省常熟市は、東に上海、南には蘇州を臨み、人口104万人、面積1,264km²の都市です。

平成3年7月に、本市と友好都市盟約締結を行い、これまで、公式訪問団の相互派遣をはじめ、スポーツや文化の交流を進めています。

本年4月から市役所本庁の企業・港振興課に在籍し、第4代国際交流員として勤務している唐瓊燁さん。

唐さんは、中国の常熟市出身で、蘇州大学を卒業後、江蘇常熟経済開発区招商局に勤務していました。

薩摩川内市の印象を聞いてみたところ、「きれいなまちで、人もやさしくて親しみやすいです」と流ちょうな日本語で答えてくれました。大学の4年間で日本語を学んだそうです。

スポーツは、バドミントンやバレーボールが得意。また、最近では、休日を利用して、

最後に、「日本の皆さんに中国の文化や、国の紹介、常熟市の風景を伝えていきたい」と熱い思いを聞かせてくれました。

日中友好の架け橋として尽力する、唐さんの活躍に期待しましょう。

日本の友人から紹介された、太極拳を習っているとのこと。会話の途中で、自然とほほ笑みを返してくれる心使いが印象的な唐さん。

日本食は魚が大好きで、お寿司も好んで食べられるそうです。